

凜々子で子どもたちのウェルビーイングを育み高める 「トマトがジャンプして踊ってる!!」

すまいる保育園八尾南
0歳児3名、1歳児9名、2歳児14名、3歳児6名、
4歳児2名、5歳児5名 合計39名
平井先生・河内先生・山本先生
加藤先生・相馬先生・阪口先生

活動のねらい

自ら育てて味わうことを通じ、自分の口に入るまでの過程と食べてからの体への効果を知り、五感を刺激することで感性を豊かにし、自己肯定感を高めチャレンジする力を育む。

- ・「0歳児から5歳児まで」年齢に合わせて栽培することで「なんだろう」から「自分たちのトマト」そして「自分のトマト」、「みんなで味わうトマト」、「トマトさん大好き」と視覚・聴覚・味覚・臭覚・触覚の五感を使い、段階的にトマトへの興味関心を深める。
- ・日々の水やりなどを経験することで、天候によって凜々子の成長が変化することを知り生命の尊さを実感する。
- ・収穫したトマトを使ったクッキング体験。皆でおやつを作ったり、ご家庭で保護者と調理することで、食への興味を深める。
- ・地域や保護者を巻き込んで、凜々子を育て味わうことで「大好きトマト凜々子」を活動に取り入れる。運動会でダンスや競技に取り入れ、親子・地域で楽しみながら凜々子を通して心と体づくりを発信し、関心を深める。
- ・1月には発表会で、0歳児～2歳児は表現遊び、3歳児～5歳児は言語を取り入れ1年間の園の取り組みとして連続性のある保育に展開。これを通じて子どもの心と体の成長と感性を最大限に引き出し自己肯定感を高める。

子どもの興味関心を継続的に引き出し、子どもの思いに寄り添い、保育士・保護者・地域が連携し、子どもを中心に据えた保育展開を連続性のあるものにする。そして、健康な体づくり・温かい心のひだを広げ、地域社会で慈しみに溢れる保育ウェルビーイングの高い保育を実践とする。

活動の概要と流れ

- | | | |
|-----|--|---|
| 4 月 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育園の菜園の土起こし 地域の方に手伝っていただきながら取り組む。 ・野菜調べ開始 トマトの絵本などを取り入れ、野菜の効果など知る。 | |
| 5 月 | <ul style="list-style-type: none"> ・届いた凜々子の苗を植える
0歳児～2歳児 プランター、3歳児～5歳児 一人一鉢。 ・園の菜園にクラスごとに植える。 |  |
| 6 月 | <ul style="list-style-type: none"> ・芽かき 花の観察 実の観察 ・3歳児～5歳児 観察記録・絵を描く ・水やり当番 ・キャラバン隊「トマトちゃん」来園
野菜の効果効能を教えてください。 |  |
| 7 月 | <ul style="list-style-type: none"> ・収穫 0歳児～5歳児 視覚・触覚・臭覚を使い、本物に触れる ・クッキング0歳児～5歳児
餃子ピザ トッピング。スチームコンベンションオープンで焼いておやつを作りました。 | |
| 8 月 | <ul style="list-style-type: none"> ・クッキング 0歳児～5歳児 ・0歳児～5歳児手作り生地でピザ作り
生地からピザを作り、モチモチふわふわの食感を楽しむ。保護者にも試食してもらう。 ・高温多湿のため、トマトの病気観察 ・観察記録、絵画、観察記録 | |
| 9 月 | <ul style="list-style-type: none"> ・親子ふれあい会10月26日
地域や保護者・祖父母・兄弟などを巻き込み、トマトを題材に競技やダンスに取り組む。 ・冷凍トマト凜々子でリリコパフェパーティー
夏に取れた凜々子を冷凍したものを使い、
トマトゼリーづくり(3歳児～5歳児)、トマトゼリーにトッピング(0歳児～5歳児)。 | |

調理(実習)メニュー

- ①餃子トマトと夏野菜ピザ ②手作り生地の凜々子ピザ ③リリコゼリーパフェ



実施内容詳細

- ①園児や地域に情報発信 ホームページ・instagram配信
- ②保護者に毎日凧々子の成長を報告し、子どもと一緒に観察
収穫したトマトで夕食づくり、レシピと写真の協力
- ③地域の方に園の菜園で凧々子の定植を手伝っていただき
その後の成長のフォローも協力していただく
- ④オリジナル活動として
トマトダンス 0歳児～3歳児、トマトを運ぼう競技
発表会での3歳児～5歳児の言語表現「トマトの取り組み」
0歳児～3歳児の表現遊び「トマトダンス」「トマトパズル」



取り組みの工夫と実践の成果

凧々子を育てることで、植物にも命があり心を込めてお世話をする事で大きな実がなることや、自分の口に入るまで何日もの日数がかかり、たくさんの人に助けてもらい手間暇がかかることを知り、食べ物大切さを改めて学ぶことができた。また長期的に取り組むことで達成感を得られた。そして、自分たちで育てたトマトを使ってクッキングすることで「楽しい・おいしい・うれしい」という気持ちを友達と共感し、力を合わせてやり遂げることの大切さを学べた。また、トマトに来るたくさんの虫たちを知り、生命の神秘も感じる事ができた。0歳児から5歳児が各活動に取り入れることで、異年齢の子がそばで取り組む内容を見て真似をし、次の年は子ども自身から意欲的に取り組む姿勢が生まれた。凧々子の活動に取り組むことで、園全体で子どもたちを真ん中に据えて、どう支援していくか、協力・応援していくかを考え、保護者・地域・職員が一丸となって保育展開する力が生まれた。

感じたこと

「りりこわくわくプログラム」は職員が一丸となって挑戦するという、子どもも職員もワクワクが止まらないプログラムです。子どもの想いに寄り添って、子どもたちの興味関心を継続的に引き出し、保育士・保護者・地域の連携を強め、子どもを真ん中に据えた保育展開を連続性のあるものにできました。この活動を通して、健康な体作り・温かい心のひだを広げ、地域社会で見守られるウェルビーイングにつながる保育を目指していきたいとさらに強く思いました。本物に触れる保育は子どもも大人も巻き込むことができ、その気から本気になり、子どもと共に大人も発見の多いプログラムでした。この体験を1月の発表会で、子どもたちが目をキラキラ光らせ発表できるよう、これからも支援し続けます。

ご意見ご感想

子どもたちが本気になって取り組むプログラムに感謝いたします。トマトに触れ、育て、口にすると何日もかかって、やっと自分のトマトを手にとると、どの子もにっこりと笑顔になります。また、トマトゼリーを作って食べることでトマトの甘さを知り、大好きになりました。子どもたちが気軽に飲んだり、食べたりできるトマトジュースやゼリーなどが保育園などの給食やおやつにあれば、より幼い時から身近にカゴメを感じることができます。これからも体に良い食品づくりをお願いいたします。子どもの頃から大好きなカゴメのケチャップいつまでも。

受賞理由

0歳児から5歳児、先生方も総出で取り組んでいただきました。栽培では年齢に合わせた興味関心を自然に引き出す問いかけや、五感を大切にされた観察など、子どもたちに寄り添った心温まる活動が印象に残りました。運動会のダンスや競技にトマトをテーマに取り入れるなど、栽培活動を親子や地域で楽しめる内容に広げ、園内に留まらない楽しい活動になっている点が特に素晴らしいと思います。